

# 本荘蓮花寺構居跡

## 播磨町郷土資料館 2016.6



本荘蓮花寺構居跡は播磨町北本荘七丁目に所在する遺跡です。幻の阿闍城跡の候補地の1つにもなっている遺跡です。昭和37年に土地改良事業が行われるまで蓮花寺周囲には堀が巡らされていました。下の昭和36年の空中写真でも明らかですが、地元の方々は遊んだり藪蚊に悩まされた記憶が残っているそうです。蓮花寺東側で発掘調査を行い、堀跡を再度確認しました。堀・溝や当時の陶磁器が出土しました。調査成果はそれだけにとどまらず、それ以前にも蓮花寺周辺で生活していることが明らかになりました。その一部を速報展示で展示しますので、弥生時代から近世に至る先人の足跡をご覧ください。



1965年の蓮花寺周辺空中写真(堀は埋まっています)



1961年の蓮花寺周辺空中写真

## 堀跡

東側と南側で堀跡を確認しました。堀は最大幅8.2m、深さ1.2mを測ります。断面の形状はV字形で60°前後の急傾斜を呈しています。東側の堀は底に幅0.5m、深さ0.3mの箱形の溝がありました。底から0.5m前後までは植物遺体を多く含む層で、戦国期に近い時期と思われます。その上は堀が埋められるまでと時期幅があり、浚渫などが繰り返されていたのでしょうか。肩部近くには杭列が認められますが時期は断定できません。堀の外側には盛土が施され土壠状になっています。上面が削平されていますが、幅3m以上あります。



東側堀(東から)



調査堀東肩杭列前



堀西肩杭列



東側堀北壁堆積状況



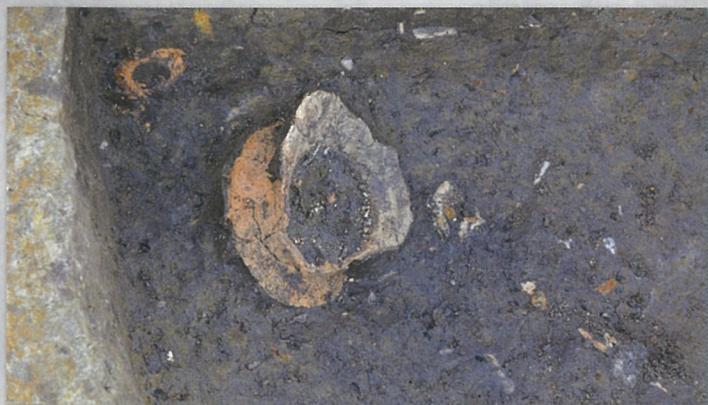
東側堀底溝



南側堀東壁

## 弥生時代の遺構

溝跡と土坑を調査しました。溝跡は自然のものと人工のものがあります。最大幅1.4mで深さは0.3mと浅いものです。弥生土器と石錐が出土しています。土坑は14基確認しました。そのうちの2基(SK03とSK04)から比較的多くの土器が出土しました。特にイイダコ壺が多く含まれているのが特徴です。SK03からはイイダコ壺のほかに壺・甕・高杯・器台が出土しました。点数は多いとは言えませんが、いろんな器種が出土しています。この時期の土器を考えるうえで良好な資料です。



SK03土器出土状態

SK04土器出土状態



SK03出土イイダコ壺

SK03からは多くのイイダコ壺が出土しました。名前のとおりイイダコを捕獲するためのコップ形の壺です。大中遺跡でも多量に出土しています。大中遺跡は海から2.6km離れていますが、本荘蓮花寺構居跡は0.5kmと近く漁業を行うには便利だったと思います。出土土器の中でイイダコ壺が最も多いことは、イイダコ漁が盛んだったことを示しています。



SD06・07(南から)



SD02(北から)



## 地震痕跡

今回の調査で液状化現象と呼ばれる地震の痕跡も確認しました。大きな地震によって下層の砂が噴き上がるもので、断面や平面で検出されました。今回の調査では土地改良事業の整地面にも見られましたので、1962(昭和37)年以降の地震痕跡すなわち阪神淡路大震災のものと思われます。埋立地(播磨町では新島)などで確認されていますが、発掘調査で検出された例は希少です。



## 足跡

足跡が遺構面に残っていました。左側は人の足跡、右側の2枚は偶蹄目の足跡です。牛の足跡と思われます。犁を引くなど農耕に利用した証拠で、牛利用は古墳時代以降です。

## 調査状況



1トレンチ全景(南から)



2トレンチ全景(西から)



調査前



機械掘削



調査風景(人力掘削)

